



お江戸舟遊び瓦版 1124-1号

水彩都市江東

こころ美しい日本の再生

安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会

江東区千田 13-10

PARC 自由学校鎌田慧さんと訪ねる下北半島 (1)

日時： 9 月 26～28 日

所：下北半島

主催：PARC 自由学校 企画協力：永田浩三（武蔵大学名誉教授）、
伊藤和子（核燃サイクル阻止 1 万人訴訟原告団）

はじめに：

PARC 自由学校「鎌田慧ルポルタージュと文学の現場から」のオプションとして下北半島を訪ねた。下北半島には沖縄のアジア最大の嘉手納米軍基地に次ぐ三沢米軍基地、六ヶ所村の再処理工場、東通村の東通原発、むつ中間処分場計画、大間原発・中間処分場などが山積する課題山積の地域だ。

9 月 26 日

東京から八戸駅に到着、先ず、ユネスコ無形文化財の展示を楽しみ、バスに乗った。途中はごぼう・ながいも畑が続く緑いっぱいの耕作地が続いた。六ヶ所村次世代エネルギーパークに着き周囲を望むと、歴大な風力発電、太陽光発電、石油備蓄タンクが山積していた。その陰に再処理工場などが林立しているかと思うが、中に入ることはできなかった。



(HP: [六ヶ所村次世代エネルギーパーク](#))



八戸駅ユネスコ無形文化財



ごぼう・ながいも畑が続く



原燃再処理工場概要（原燃 HP）



エネルギーパークから風力・太陽光・備蓄タンクを望む

「むつ小川原開発計画」は石油コンビナートを作るためと宣伝されたが 2 度のオイルショックで頓挫し、核燃料サイクル施設を受け入れざるを得ないという経過で諸施設が設置されている。元々、下北半島は豊かな農地なのに広い用地が広がっている。その周辺に風力・太陽光発電と国家石油備蓄タンクが設置されている皮肉と言える施設が満杯なのがあまりにも印象的であった。次に北上し、むつ科学技術館に。「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」の方から原子力船むつと母港関根浜漁港について解説いただいた。出港後、放射線漏れを起こした「原子力船むつ」

(HP: [むつ科学技術館](#))

の実物が展示され、ある意味原子力船の難しさを痛感させられる技術館だ。その後、[関根浜漁港](#)と長い闘いの反対運動の[浜の家](#)を見学し、宿泊地へ。宿は、目前に津軽海峡、北海道が望める下風呂温泉。



9月27日

早朝、[幻の大間鉄道](#)を見学し、本州最北端の[大間崎](#)へ移動した。次に建設中の MOX 燃料利用計画の[大間原発](#)を見ることになった。その後、大間原発の炉心から 300m の唯一の[民家あさこハウス](#)に。発電所用地の**ほぼ中央に 3000 坪**の土地を有していた[熊谷あさこ](#)さんが用地買収に応じなかったので残った土地で、あさこさんが亡くなった後、[長女の厚子](#)さんが守っている。各地の支援者の応援で守り続けていて、3 年前には大学生などの協力で[ゲストハウス](#)が建てられた。



幻の大間鉄道記念跡



本州最北端の大間崎

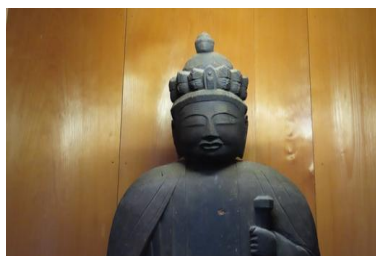


建設中の大間原発



あさこハウスでの解説 (HP: [北方ジャーナル | information](#)) ゲストハウス

あさこハウスを後にし、海峡保養センターで[大間マグロ](#)丼を賞味し、佐井村の[長福寺](#)へ。[円空](#)作の**木彫 11 面観音**が迎えてくれた。円空は江戸時代前期の臨済宗の僧侶で、独特の木彫りの仏像を残したことで知られる。生涯に **12 万体の仏像**を彫ったと推定され、北海道、青森から三重県、奈良までに及び、約 300 年前のものなのに今でも**人々の心を打つ魅力**に溢れ、根強いファンが。その後、円空菩薩像があるという恐山・菩提寺、釈迦如来像のむつ市の[常楽寺](#)、宿泊地に。



長福寺・木彫 11 面観音



恐山・菩提寺 (HP: [霊場恐山 \(公式\)](#))



恐山



宇曾利山湖



常 楽 寺

